2021年度
和洋女子大学教学マネジメント評価委員会
報告書

和洋女子大学

目次

1.　はじめに……3
2.　各大学の取り組みについて……3
①　和洋女子大学の「教育の内部質保証」及び「学習成果の可視化」の取り組み……3
（ア）　教学の内部質保証の概要……3
（イ）　学習成果の可視化の取り組み……3
（ウ）　学習成果の可視化の課題と展望……4
②　明治大学の「教育の内部質保証」及び「学習成果の可視化」の取り組み……4
③　学習院女子大学の「教育の内部質保証」及び「学習成果の可視化」の取り組み……5
④　武庫川女子大学の「教育の内部質保証」及び「学習成果の可視化」の取り組み……5
3.　まとめ……6
4.　委員会概要……6
5.　委員会名簿……7

1.　はじめに

本学の「教学マネジメント評価委員会」は、2016(平成 28)年度から設置された委員会で、大学の教学マネジメントを担う学長、副学長、学部長、部門長、研究科長、事務部門管理者が委員となり、また、学外から評価委員を招聘し、本学の教育の質保証が適切に実施されていることを第三者の視点を交えて検証することを目的として、設置された委員会である。

2021(令和 3)年度は、和洋女子大学の大学認証評価受審年度でもあり、本学教育の「内部質保証の体制」に係る自己点検を中心に第三者の学外委員の意見を聞き取り、「内部質保証」が十分に機能しているかの検証を行った。

今年度は本学と学外委員の所属大学の「教育の内部質保証」及び「学習成果の可視化」の取り組みについて状況を聞き取り、本学での今後の運用の参考にすることとした。

2.　各大学の取り組みについて

①　和洋女子大学の「教育の内部質保証」及び「学習成果の可視化」の取り組み

（池田幸恭 学内委員）

（ア）　教学の内部質保証の概要

本学のアセスメント・ポリシーは、縦軸を大学（機関）レベル、学部・学科（教育課程）レベル、授業科目レベルの 3 つ水準に分け、横軸にアドミッション・ポリシー（AP)、カリキュラム・ポリシー（CP)、ディプロマ・ポリシー（DP）の 3 ポリシーを置いて、3×3=9 マスで構成されるマトリックスで表現している。このアセスメント・ポリシーに従い、大学内部質保証の推進組織である評議会が、内部質保証のための PDCA サイクルを動かす起点となる。また、学長、副学長が学園理事会、評議員会のメンバーであり、そこで決定される学園の中期計画と大学の事業計画に基づいて、学内の内部質保証を念頭に事業を推進する役割を担っている。その構造によって、学園と大学とが一体となって、事業計画を実行し、アセスメント・ポリシーに準拠して実行を検証する体制となっている。

（イ）　学習成果の可視化の取り組み

本学では学びの順序性・体系を明示するために以前より科目のナンバリングを行っており、さらに、学習成果の可視化につながる就学プロセスを示したカリキュラムマップを作成している。いずれも学生の就学が順序性をもっと体系的に進むことを配慮したもので、学習成果の可視化を見据えた取り組みを行っている。

学部では、以下の 5 つの評価、調査で可視化に取り組んでいる。

・　「ディプロマ・ポリシー」に明示した学生の学習成果の把握と評価
・　「基礎ゼミ」ルーブリック評価

・　基礎ゼミの授業で実施した「大学での学びの目標」の設定
・　授業評価アンケートで 5 つの力の向上についての項目を追加し「授業による成長感」を把握
・　卒業生調査

大学院の取り組みは以下の３点である。

・　学習成果・研究成果としての修士論文・博士論文の重視
・　論文の審査・評価プロセスの可視化
・　学びに対する大学院生調査（自由記述式）の活用

これらをとおして、専門職研究者養成に特化した学習成果の可視化の取り組みを行っている。

（ウ）　学習成果の可視化の課題と展望

主に以下の点を検討している。

・　卒業研究・卒業制作の評価・・・卒業論文は必修科目でありディプロマ・ポリシーを反映している。基礎ゼミルーブリック評価のように初年度の学びの評価を可視化していく部分と、卒業時、学位記授与時（学士課程）の学びの可視化をどのように構成していくのかが課題となる。一律に全学的な共通の評価基準を設けても実際のディプロマ・ポリシーと合致しない部分も出てくるため、大学院の状況と共に検討したい。
・　大学の教育目標を考慮したアセスメントツールの開発・・・大学の学びの設定にもつながり、進級時に情報を分析し学生・教員で共有することができる。教職員の過重負担とならない仕組み作りを検討していく。
・　「キャリアデザインポリシー」の策定・・・共通総合科目・進路支援の資格講座・専門科目にあるキャリア教育の体系化を目指しながら、今後のリカレント教育、社会人教育、卒業生の調査等につながるポリシーを検討していく。

② 明治大学の「教育の内部質保証」及び「学習成果の可視化」の取り組み

（駒見和夫 学外委員）

明治大学のシステムは、全学レベルでは学長方針を基に周辺組織で自己点検・評価があり、教育（ミドル）レベルで教育プログラムの自己点検・評価がある。教員はミドルレベルで直接関わる。自己点検・評価体制図では、教員は「各学部・研究科等（学部、大学院、資格課程）」に所属し、教育プログラムの自己点検・評価を行い、年 1 回、書面で報告している。委員会からは、自己点検のニュースペーパーが発行されており、各自、内容理解に努めることができる。所属の文学部資格課程では、資格課程として 3 つのポリシーを立て、さらにそれぞれの課程でもポリシーを立てている。中・長期計画と単年度計画も毎年提出し、翌年度初めに振り返り評価を行う体制とな

っている。

学芸員課程では、4 年生に自己評価をしてもらい、教員は次年度の学生教育に役立てるという事を行っている。任意でそれぞれのセクションで取り組んでいる。ルーブリック評価は、大学のシステムとしては導入していないが、同一科目を複数教員で担当すると評価の差が出るため、評価基準としてのルーブリックを設定することは必要と考える。

資格科目は CAP 制外に設定されているため、資格は取れれば良いと考えている学生も多いが、評価基準を“見える化”することによって学生の認識にも変化が生じると考えている。

③ 学習院女子大学の「教育の内部質保証」及び「学習成果の可視化」の取り組み（佐久間みかよ 学外委員）

学習院女子大学は国際文化交流学部の 1 学部（3 学科構成）でリベラルアーツカレッジを目指している。国際関係に非常に力を入れており英語コミュニケーション学科は半年の留学が卒業要件となっている。

内部質保証は学内の各部門（学科会議、教務委員会、学生委員会、研究科委員会、図書館、国際交流推進センター等)が、法人の事業計画である「学習院未来計画 2021」に基づき、更に大学が策定した 5 ヶ年計画を踏まえて、自己点検評価を行っている。法人と大学独自の 2 種類の計画が並行しているが、相互に矛盾が生じないよう計画を立てている。学習成果の可視化については、ディプロマ・ポリシーに沿った学習成果の可視化にむけて卒業論文・研究にルーブリックを導入するなど検討をすすめている。

具体的な評価方法は、学則にも記載の通り SABC 評価で履修者 30 名以上は相対評価とし、評価の厳格化を行っている。国際化中期計画を立てて国際化を推進している。海外同時授業（協定校と）も実施（単位化している）する等、海外大学との提携には力を入れている。アメリカの他近隣アジア・ヨーロッパ（含む東欧）からの留学生を受け入れ、留学生用日本語授業なども行っている。留学には非常に力を入れていて国際交流センターが手厚いケアを行っている。

④ 武庫川女子大学の「教育の内部質保証」及び「学習成果の可視化」の取り組み（福井誠 学外委員）

大学と学部での違いや経営学部が完成年度に至っていないため、「武庫川女子大学/経営学部における学習成果の可視化と計画」としての報告となる。内部質保証の方針、内部質保証概念図は公開しており、大学全体での教育の可視化については指標案の検討を進めている。

経営学部では実践学習を行っており、1 年次の前期に必修の導入科目を置き後期か

らプロジェクトに参加する。3 つの実践学習科目を含め計 4 単位を修得（1 科目 1 単位)。初年度は在籍 258 名に対し 40 プロジェクトを公開し、270 名が参加した。この結果を今後学生がどのように紹介していくのか検討していきたい。機会としては 1 年から 4 年まで開設しているので PDCA を何度も回すことができる。

プロアクティブ行動とは「組織内の役割を引き受けるのに必要な社会的知識や技術を獲得しようとする個人の主体的な行動全般」のことであり、対して授業外コミュニティや授業参加にモデルケースを作るためにどういう職種に就職しているか、大学生活充実度に影響して現在のプロアクティブ行動に繋がっていることが判明している。実証的に大学時代のパフォーマンスは後々に影響することが分かりつつある。

経営学部における教育の可視化も検討しており、実践活動の記録を中心に情報を蓄積して就職活動にも繋げていきたい。将来的には大学 80 周年のキャンペーン「一生を描ききる女性力を」や学部の開設ポリシー「人生 100 年時代のしなやかなキャリア形成」にも繋げていければよい。

3. まとめ

2021(令和 3)年度の教学マネジメント評価委員会では、各大学の「教育の内部質保証」及び「学習成果の可視化」の取り組みについて報告し、意見交換を行った。大規模大学、中規模大学、小規模大学、共学、女子大学と多様な形態の大学が集まったため、それぞれの特色ある取り組みを確認することができた。

また、第 3 期認証評価期間での教学マネジメント評価委員会の実施ということもあり、各大学ともより一層、教育の内部質保証、教育の PDCA を重視する取り組みを進めていることも確認できた。

学生の成長のためには、教育の質保証をより一層進めることが重要と捉え、大学・学部・学科の特性を活かした取り組みを行うこととした。

4. 委員会概要

開催日時：第 1 回･･･2021 年 6 月 29 日（火）14:00～15:05
　　第 2 回･･･2021 年 7 月 27 日（火）13:30～14:30
開催方法：Zoom による Web 会議
次　第：内容
第 1 回･･･(1)和洋女子大学における「教育の内部質保証」及び「学習成果の可視化」の取り組みについて
(2)明治大学における「教育の内部質保証」及び「学習成果の可視化」の取り組みについて

(3)質疑応答
(4)その他

第 2 回･･･(1)学習院女子大学の「教育の内部質保証」及び「学習成果の可視化」の取り組みについて
(2)武庫川女子大学の「教育の内部質保証」及び「学習成果の可視化」の取り組みについて
(3)質疑応答
(4)その他

5. 委員会名簿

学外委員

福井　誠　　武庫川女子大学　経営学部長
駒見　和夫　　明治大学　文学部　教授
佐久間 みかよ 学習院女子大学　国際文化交流学部国際コミュニケーション学科　教授

学内委員出席者

岸田　宏司　　和洋女子大学　学長（兼図書館長）
金丸　裕志　　和洋女子大学　副学長
金子　健彦　　和洋女子大学　副学長　大学院長
今村　武　　和洋学園　事務局長
池田　幸恭　　和洋女子大学　人文学部長
里正　明伍　　和洋女子大学　国際学部長
庄司　妃佐　　和洋女子大学　家政学部長
刀根　洋子　　和洋女子大学　看護学部長
田口　久美子　和洋女子大学　全学教育センター長
湊　　久美子　和洋女子大学　教学部門長
藤澤　由美子　和洋女子大学　企画部門長
佐藤　勝明　　和洋女子大学大学院　人文科学研究科長（兼日本文学専攻主任）
柳澤　幸江　　和洋女子大学大学院　総合生活研究科長
拝田　清　　和洋女子大学大学院　人文科学研究科　英語文学専攻主任
佐藤　宏子　　和洋女子大学大学院　総合生活研究科　総合生活専攻主任
神河　秀春　　和洋女子大学　事務局次長
石井　八千代　和洋女子大学　企画部長
伊藤　博康　　和洋女子大学　学生支援部長
色摩　和則　　和洋女子大学　経営管理部長
吉井　孝子　　和洋女子大学　学術推進部長